

第 411 回集談会（ご案内）

1. 日時: 2009 年 11 月 2 日（月） 16:30～
2. 場所: 2 A 講義棟（中央棟 2 階）
3. 座長: 薬物治療学教室助教 菅野秀一先生（内線 3411）
4. 演者: 放射薬品学教室助教 大竹洋輔先生（内線 3603）
5. 演題: 架橋化酵素トランスグルタミナーゼによる肝細胞増殖の制御
6. 要旨: 肝臓は、著しい再生能力を有する器官であり、その再生能力は 3000 年前のギリシャ神話にも登場するほどである。ラットの肝臓は肝重量の 70%を切除しても、1 週間で元の肝重量に戻ることができる。肝再生過程において、その細胞増殖は残余肝の全域において均等に起きるものではなく、先に門脈領域で DNA 合成が開始し、その後静脈領域へ広がるという独特なパターンを示すことが知られている。しかし、この部位特異的な肝再生メカニズムについては未だ解明に至っていない。本教室では、タンパク質架橋反応触媒酵素であるトランスグルタミナーゼが部位特異的細胞増殖に関与している可能性を見出してきた。トランスグルタミナーゼとはタンパク質の分子内あるいは分子間で架橋を形成することにより、種々の病態形成、血液凝固あるいはアポトーシス等に深く関与している酵素である。本集談会では演者が今まで明らかにしてきたトランスグルタミナーゼによる肝細胞増殖の制御メカニズムについて紹介する。